

Q2: 「妊娠高血圧症候群になりやすいのはどんな人ですか？」

妊娠高血圧症候群になりやすい因子は大きく 2 つにわけられます。

- ① 妊婦さんが妊娠前から持っているもの
- ② 今回の妊娠自体が妊婦さんに影響を与えることによるものです。

① 妊婦さんが妊娠前から持っているもの

年齢、体重、遺伝的なもの、妊娠前から持っている病気などがあげられます。

年齢が 40 歳以上の方はそれ未満の方に比べ 1.7 倍妊娠高血圧症候群になりやすいと言われています。また妊娠する前から肥満 (body mass index (BMI) : (体重 (kg) / (身長 (m) × 身長 (m))) が 25 以上) がある場合にも、正常体重の方に比べ約 2 倍 (BMI が 30 以上の場合には約 3 倍) 妊娠高血圧症候群になりやすくなります。

また遺伝的な因子として、ご家族に高血圧または糖尿病の方がいる場合にはいない場合に比べてそれぞれ約 2 倍、お母さんやご姉妹が妊娠高血圧腎症 (妊娠高血圧症候群の病型のひとつ; 妊娠高血圧症候群の病型分類参照) になったことがある場合にはそうでない場合に比べて約 3 倍妊娠高血圧症候群になりやすいことも知られています。

さらに妊婦さんがもともと持っている病気が影響することもあります。高血圧症では 11 倍、糖尿病では 3 倍、腎臓の病気では 7 倍、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫性疾患では 7 倍、抗リン脂質抗体症候群では 10 倍ほど妊娠高血圧症候群になりやすくなります。

② 今回の妊娠自体が妊婦さんに影響を与えることによるもの

初めて出産を経験する方 (初産婦さん)、双子を妊娠した方、前回の妊娠から今回の妊娠までの期間が長く空いた方、以前の妊娠で妊娠高血圧症候群になった方が挙げられます。

今回が初めての出産の場合、出産したことがある妊婦さんに比べて約 3 倍妊娠高血圧症候群になりやすいことが知られています。また、双子の赤ちゃんを妊娠した場合には 1 人の赤ちゃんを妊娠した場合に比べて約 2 倍、前の妊娠から今回の妊娠までの期間が 5 年以上空いた場合は、その間隔が 2 年未満の妊婦さんに比べ約 2 倍、さらに初めてのお産の時に妊娠高血圧症候群を発症していた場合、その次の妊娠では 2 倍発症しやすくなります。また生殖補助医療 (不妊治療) によって妊娠した妊婦さんの場合には、妊娠高血圧症候群になりやすいという報告と変わらないという報告があります。

まず、ご自分がどの因子を持っているのかご確認ください。ご自分がどれくらい妊娠高血圧症候群になりやすいのかを認識しておくことは大切なことです。もし上でご説明したような因子を持っている場合、もちろん必ず発症するというわけではありませんが、担当医の先生と相談しながら妊娠高血圧症候群にならないよう日頃から血圧や症状など (妊娠高血圧症候群とはどんな病気ですか? 参照) に注意していくことが大切です。